



第二六二回北斗句会(令和七年三月五日)

五十音順 特選は特選 石田きよし選

桜観るたびに歳月かぞへけり

大崎石州

ひと叩き香り爽やか山椒の芽

太田黒幸風

特 悪友と思ひ思はれ八十の春

大森康正

昼食の力うどんや二月尽

川崎きこう

特 桃の花ひと枝供へ卒哭忌

竹内雲泉

特 褪せつつも微笑む雛や母の影

長池豆陽

官女雛ひとり性は悪女かも

藤田紀潮



生くるとは残さるること鳥雲に

石田きよし

